

第 28 期

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

事 業 報 告 書

公益財団法人 双日国際交流財団

第28期（平成26年4月1日～平成27年3月31日） 事業報告書

公益法人へ移行後4期目の第28期、平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）は、前年度に続き、基調事業としての学術研究助成、奨学金助成、国際交流助成等の助成事業を実施し、またその他事業として、機関誌「財団だより第11号」を発行し、母体会社の双日株式会社を始め関係先への配布を行い、また外部に対する情報公開として財団ホームページの管理・運営を継続実行した。

財団の財政収支面では、今年度も双日㈱から事業費及び管理費向に500万円の寄附があった。

基本財産の運用においては、依然として金利水準が低迷する中、平成26年度年間では4,032万円の運用収益を確保できた。

基本財産を形成している債券の価額は、時価評価において6,744万円の増加があり、今期末の基本財産額は前期末比6,861万円強増加の合計21億6,573万円となった。

〔I〕 今期の事業の概要

a. 助成事業

今年度の助成事業は、平成26年度事業計画に定められていた当初の43案件に加えて、9月～10月に追加選考した4案件を加えた計47案件計3,488万円の助成を実施した。

以下に、各助成案件の概要を報告いたします。

イ) 学術研究助成

・ライシャワーセンター/日米関係研究活動への助成

日本理解を促進し日米関係の健全な育成のために行うジョン・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院同センターの下記諸活動に対して助成。

- ①日米関係年次報告書制作プロジェクト
- ②日米の未来のための人材育成プロジェクト
- ③日本人客員研究員招聘プロジェクト
- ④ASIA in Washington セミナーシリーズ・日本の世界への国際貢献を
検討するプロジェクト

ロ) 奨学金助成

1. 当財団奨学金制度による外国人私費留学生への奨学金助成

今年度5月～6月の補充選考を経て、以下の17名の奨学生に対し奨学金を支給した。

- | | |
|----------------|------------------|
| ①ジョ ヨンミョン | (東北大学 医学部) |
| ②ユン ソヨン | (一橋大学 社会学部) |
| ③ハン サンイル | (九州大学 文学部) |
| ④ハルタル アマルトゥブシン | (北海道大学大学院 医学研究科) |

- ⑤カチリ ユセフ (東京大学大学院 情報理工学系研究科)
- ⑥オウ ケンコウ (一橋大学大学院 国際企業戦略研究科)
- ⑦リク ブンケツ (京都大学大学院 薬学研究科)
- ⑧ナツアグドリジュ チョイジョルスレン (神戸大学 工学部)
- ⑨アフメドフ アリシエル (立命館アジア太平洋大学 国際経営学部)
- ⑩ジラワンシリグン ピーラパット (立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部)
- ⑪オフォリ サムエル カベナ (筑波大学大学院 システム情報工学研究科)
- ⑫センゲンド ケネス ポール (東京工業大学大学院 理工学研究科)
- ⑬キウ ビック ハイン (横浜国立大学大学院 国際社会科学府)
- ⑭バチスタ ジョージ モロニティシェイラ (名古屋大学大学院 情報科学研究科)
- ⑮キン パ (大阪大学大学院 人間科学研究科)
- ⑯グティエス マシエル (早稲田大学大学院 国際コミュニケーション研究科)
- ⑰ケイ ハイ (上智大学大学院 地球環境学研究科)

2. 国際大学奨学金制度への助成

国際大学が、同大学に在籍する外国人私費留学生に支給する同大学の奨学金制度の中の Sojitz Foundation Scholarship に対して助成を行った。

ハ) 国際交流助成

(国際会議等)

1. 「第 66 回 日米学生会議」への助成

「文化の交差から創る道～学生が受け継ぐ 80 年の平和の歩み～」をテーマにアメリカ国内 4 地域を巡りながら 6 分科会に分かれ、フィールドトリップ、フォーラムを実施し、ファイナルフォーラムで総括を行った。

開催時期： 2014 年 8 月 2 日～8 月 25 日

開催地： アメリカ合衆国 (デイモン (アイオワ州)・サンフランシスコ・ニューヨーク・ワシントン)

参加人員： 日本側 35 名、 米国側 36 名 計 71 名

2. 「第 33 回 日中学生会議」への助成

「本音で語る～信頼できる日中～」をテーマに分科会 (外交・経済・社会・歴史・情報) 討論・文化交流・フィールドワークを中心に、中国の北京、広州、香港にて開催。

開催時期： 2014 年 8 月 11 日～8 月 27 日

開催地： 中国 (北京・広州・香港)

参加人員： 日本側 24 名、中国側 25 名 計 49 名

3. 「第 29 回 日韓学生会議」への助成

分科会(①長い闇のその先へ～日韓が直面した経済危機の比較～②日韓の報道の問題点と解決策③日韓の飲酒文化ビジョン④靖国神社を巡る日韓での認識の差異)討論を行い、

文化交流企画、フィールドトリップ、ホームステイ等を通じて交流し、相互理解を図った。

開催時期： 2014年8月5日～8月19日

開催地： 日本（東京）

参加人員： 日本側11名、韓国側11名、通訳4名 計26名

4. 「第26回 日本ロシア学生会議」への助成

文化（妖怪、祝日、童謡）、ファッション（衣服、化粧文化）、教育（学校教育の現状）、社会問題（日本とロシアに共通する社会問題）の4つのテーマで、分科会での討議を中心に、社会見学、文化紹介、ホームステイなどを通して交流した。

開催時期： 2014年8月5日～8月19日

開催地： 日本（東京・神奈川）

参加人員： 日本側10名、ロシア側19名 計29名

5. 「第18回 日本インド学生会議」への助成

福祉、環境、教育の諸問題についての分科会討論や企業・施設訪問を通じて交流。

開催時期： 2014年10月3日～10月15日

開催地： 日本（東京・千葉・埼玉）

参加人員： 日本側6名、インド側延べ12名 計18名

6. 「日本ケニア学生会議 第15期 本会議」への助成

「芸術と文化」「国際協力」「政治制度～選挙と民主主義～」についての分科会討論、施設訪問等を通して、両国の学生が相互理解を深めた。

開催時期： 2014年8月16日～9月2日

開催地： ケニア（ナイロビ・ナイバシャ）

参加人員： 日本側7名、ケニア側5名 計12名

7. 「第60回国際学生会議」への助成

「世界に向かう未来－これからのために私達が「いま」考えるべきこと－」をテーマに、分科会（都市の未来の創造／社会における芸術の価値／情報化社会におけるマスメディアのあり方／個人の権利が守られる範囲）でのディスカッション、研修旅行、日本文化体験などを通して交流した。

開催時期： 2014年8月21日～9月1日

開催地： 日本（東京・京都・大阪・神戸・岡山・九州）

参加人員： 10カ国から52名が参加（日本34名）

8. 「第12回 日本・イスラエル・パレスチナ学生会議」への助成

アイデンティティ、日常生活、難民問題、分離壁、情報、軍と武力行使をテーマに、3地域の学生が討論し、問題解決の糸口を探りながら、互いの共通点、差異について共通

認識を持った。

開催時期： 2014年8月3日～8月20日

開催地： 日本（東京・広島）

参加人員： 日本人16名、イスラエル人7名、パレスチナ人3名 計26名

9. 「第8回 日本ベトナム学生会議」への助成

物売りと観光の2テーマについて分科会討論を行い、ホーチミン、ハノイ、フエ、ダナンでの文化交流会、企業訪問、ホームステイなどを通じて交流した。

開催時期： 2014年8月8日～8月22日

開催地： ベトナム（ハノイ・ホーチミン・フエ・ダナン）

参加人員： 日本側17名、ベトナム側15名 計32名

10. 「グローバル・ネクストリーダーズフォーラム2014国際本会議」への助成

日本、中南米、東欧など9ヶ国からの学生・教授、准教授45名がソフィアに集り、「世界における経済格差」をテーマに、多面的な考察を行い、対話し、議論を行った。

開催時期： 2014年8月17日～8月24日

開催地： ブルガリア（ソフィア）

参加人員： 日本13名、チュニジア、エジプト、キルギス、ブルガリア、南アフリカ、ブラジル、スイスより32名 計45名

11. 「STeLA Leadership Forum 2014 in Stanford」への助成

次世代の国際的理工系リーダーを目指す日本・アメリカ・ヨーロッパ・中国の理工系学生が一堂に会し、「医療と生命倫理」をテーマに、リーダーシップの学習、分科会、グループプロジェクト等の合宿型フォーラムを行った。

開催時期： 2014年8月15日～8月24日

開催地： アメリカ合衆国（サンフランシスコ）

参加人員： 日本13名、アメリカ10名、ヨーロッパ14名、中国11名 計48名

12. 「第18回日本・トルコ学生会議」への助成

酒の社会的在り方、受験制度をテーマにディスカッションを行い、文化紹介・観光、日本からの進出企業訪問も行った。

開催時期： 2014年9月10日～9月18日

開催地： トルコ（イスタンブール）

参加人員： 日本6名、トルコ10名 計16名

13. 「第12回日本ルワンダ学生会議」への助成

学術・文化交流を通じて、日本とルワンダでの多角的理解を促進し、そこから両国の新たな可能性を模索した。ICT教育・日本の学歴社会と競争中心の教育、SMART RWANDA等のテーマにつき、プレゼンを行いディスカッションをした。

開催時期： 2015年1月24日～2月13日
開催地： 日本（東京・佐賀・京都）
参加人員： 日本13名、ルワンダ5名 計18名

14. 「日中学生交流団体 free-bird CHINA TRIP 2014」への助成

「私たちの草の根外交～認識の違いを理解する～」のスローガンの下、討論会(歴史問題、学校生活、現代社会)を行い、フィールドワーク、南京への小旅行、家庭訪問、文化交流を通じ相互理解を図った。

開催時期： 2014年8月15日～8月25日
開催地： 中国（上海、南京）
参加人員： 日本側19名、中国側19名 計38名

15. 「北東アジア学生ラウンドテーブル2014」への助成

「北東アジアの貿易」というテーマで6ヶ国の学生が、教育（教育を通じた北東アジア情勢の安定化）、資源（地域内の効率的な資源分配）、技術（産業技術を用いた地域の農業問題の解決）の分科会で討論した。

開催時期： 2014年8月9日～8月17日
開催地： ロシア（ウラジオストク）
参加人員： 中国5名、日本23名、韓国14名、モンゴル7名、台湾2名、
ロシア9名 計60名

16. 「日中相互訪問プロジェクト2014」への助成

「電子媒体の普及と紙媒体の衰退」「メディアと日中関係」「流行語が反映する社会現象」「新興メディアと私たちの生活」のテーマで、議論し、発表した。文化体験、ホームステイも実施した。

開催時期： 2014年8月13日～8月28日
開催地： 日本（福井県鯖江市）及び中国（北京）
参加人員： 日本14名、中国18名 計32名

17. 「日本中東学生会議 日本・中東イスラム地域青年対話プログラム」への助成

「結婚」「家庭」「ジェンダー」「恋愛」「大学生活」「歴史」「宗教」「ステレオタイプ」につき、全体ディスカッションを行い、シリアの状況についても話し合いをした。文化交流・フィールドワークも実施し交流した。

開催時期： 2014年8月26日～9月4日
参加人員： 日本側17名、中東側8名 計25名

18. 「2015 模擬国連会議全米大会第32代日本代表団派遣事業」への助成

今年度の提携校ミシガン州中央ミシガン大学の学生と交流を行い日本文化の紹介をした。ニューヨークでは国連が取り扱う国債問題を解決する為に議論をした。中央ミシ

ガン大学との合同代表団で、スイス大使という立場で各会議に参加した。

開催時期： 2015年3月7日～3月26日

開催地： アメリカ（ミシガン、ニューヨーク）

参加人員： 日本側10名、アメリカ・ドイツ・フランス・韓国・ブラジル
など世界30カ国の大学から約5,000名

19. 「Y20 Youth Summit 2014」への助成

毎回G20サミット開催に合わせて開かれるこのYouth Summitは、今年度は、オーストラリア・シドニーでの開催。「成長と仕事創出」、「世界市民と移動可能性」、「継続可能な成長」に付き討議を行い、G20のリーダーへの提言を行った。

開催時期： 2014年7月13日～15日

開催地： オーストラリア（シドニー）

参加人員： 日本側5名、G20各国から5名及び招待国5カ国より115名 合計120名

20. 「Bizjapan Summit 2014」への助成

シンガポール、中国、台湾、インド、インドネシア、フィリピン、オーストラリア等からの学生を日本に招聘し、日本側学生とミックスチームを作り、東日本大震災や復興について学ぶワークショップを行い、フィールドワークを実施して、アイデアコンテストを行った。又、企業訪問、日本文化体験も行った。

開催時期： 2014年12月14日～12月21日

開催地： 日本（東京、仙台）

参加者： 日本側5大学から30名、海外側18ヶ国・地域から35名 計65名

（国際交流）

21. 「第27回ジャパンテントー世界留学生交流いしかわ2014ー」への助成

日本で学ぶ世界からの留学生が石川県に集い、「ふるさと愛」をテーマに、若者達の夢と希望・日本の社会・文化・生活について意見を交換し合い、シンポジウム、ホームステイ等を通じた国際交流が行われた。

開催時期： 2014年8月20日～8月26日

開催地： 日本（石川県金沢市・小松市・輪島市、七尾市、能登町、加賀市 他19市町）

参加者： 留学生（75ヶ国・地域から）、ボランティア学生294名、地元の人々

22. 「“Mr.J”プロジェクトチーム 日本語夏季講習サマースクール」への助成

ウランバートルにある「新モンゴル高校」を舞台にして、日本の大学生が教師役となり、モンゴル高校卒業予定者を対象に、日本の詩や歌を含む日本語の授業、日本の社会生活の学習を行うサマースクールが開催された。

開催時期： 2014年7月28日～8月22日

開催地： モンゴル（ウランバートル）

参加人員： 日本活動メンバー6名、現地運営メンバー20名、新モンゴル高校生220名

23. 「互いのことばを学ぶ日韓 中高校生交流プログラム 2014」への助成
ソウルの宿舎で共同生活を送りながら K-POP ダンスの創作活動、買い物体験を通じてお互い相手の言葉を学びつつ交流した。
開催時期：2014年12月25日～12月30日
開催地：韓国（ソウル市）
参加人員：日本16名、韓国16名 計32名
24. 「2014年度日中青年会議」への助成
文化理解から始め、批判的思考/歴史/教育に関して話し合い、異文化理解や相互理解・尊重を深めた。
開催時期：2014年7月25日～7月31日
開催地：中国（香港）
参加人員：日本17名、中国27名、オーガナイザー30名 計74名
25. 「CEPEX Japan Studies Award」への助成
米国のNPO法人CEPEXが、ジョージメイソン大学と共同で行うアメリカ人日本専門家育成プログラム「Japan Studies Award」。このコンテストの優勝者には、ワシントンDCの日本企業での2週間のインターンシップの経験及び10日間の日本訪問の機会が与えられた。
開催時期：2014年5月、6月
開催地：米国（ワシントン）、日本（東京）
26. 「第12回学生のための国際ビジネスコンテスト OVAL」への助成
日本、中国、韓国の学生によるビジネスコンテスト。今年はソウルにて「Health Care Industry」というケーステーマでビジネスプランを策定し、チームで競った。
ソウル市内でのフィールドワークも行われ、交流を深めた。
開催時期：2014年8月9日～8月18日
開催地：韓国（ソウル）
参加者：日本68名、中国63名、韓国62名 計193名
27. 「MPJユース2014年度アフリカ研修事業」への助成
文化交流を行い、「農業」「外交と文化」「教育」「エネルギー」をテーマとして、4分科会でディスカッションを行い、関連政府機関を訪問した。
開催時期：2015年3月10日～3月15日
開催地：マラウイ（リロングウェ）
参加人員：日本10名、マラウイ29名 計39名
28. 「アジア・パートナーシップ・プロジェクト [TOMODACHI100]」への助成

経済・学術・文化等の視察や交流及びホームステイを通して、相互理解を深め合い、地域活性への促進し、パートナーシップの構築をした。

開催時期： 2014年8月18日～8月27日

開催地： 日本（佐賀）

参加者： 日本10名、韓国7名、中国19名 計36名

29. 「第19回海外高校生による日本語スピーチコンテスト及び青少年のための異文化交流プログラム」への助成

各国の予選を通過した代表を日本に招聘し、スピーチコンテストが行われた。

又、異文化交流プログラムも行われ、日本人高校生と海外高校生のお互いの文化を理解し、ホームステイも行われ、国境を超えた友情を深めた。

開催時期：2014年7月17日～7月28日

開催地： 日本（川崎・東京）

参加者： 15カ国(中国、韓国、シンガポール、アメリカ、カナダ等) 計16名

30. 「JETプログラム参加者との国際交流会」への助成

JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)参加者と官民学各界の識者が集まり、長崎における国際化への取り組みと課題に付き報告討議を行い、JETプログラムに関するセミナーを開催し、国際交流会を進めた。

開催時期：2014年11月28日

開催地： 日本（長崎）

参加者： 日本51名、JET参加者42名、各国大使館4名 計97名

31. 「日本・インドネシアの若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」への助成

東京と京都でホームステイをしながら日本の企業、教育機関、NPO法人にて視察研修を行い、交流・意見交換をすることで、問題に対し多様な視点やより具体的は実践方法を学んだ。又、文化交流も行った。

開催時期：2014年11月6日～11月27日

開催地： 日本（東京、京都）

参加者： 日本側関係者約1000名、インドネシア6名

32. 奨学生交流会

財団の奨学生同志及び財団役職員との交流・親睦の為、並びに奨学生ネットワーク作りを目指し、毎年開く奨学生交流会。初日は、奨学生、財団役職員及び双日(株)の関係者も加わっての東京のホテルでの懇親会、2～3日目は茨城・栃木方面への研修旅行というプログラムで開催された。この交流会を通じ、奨学生同志の親睦が一層深まった。

開催時期： 2014年9月18日～20日

参加者： 奨学生・奨学生OB 24名、 役員他関係者 38名 計62名

(日本文化紹介等)

33. 「第 39 回 ジャパンウィーク 2014 年 スイス・ベルン」への助成

日本から参加する多くの団体による、日本の伝統芸能、伝統工芸、美術、音楽、スポーツ等幅広いジャンルの日本文化紹介を通じて、日本に対する理解を深めると同時に、地元市民との交流を図る企画。今年度はスイス・ベルンで開催された。

開催時期： 2014 年 10 月 22 日～10 月 27 日

開催地： スイス（ベルン）

参加者： 日本側 61 団体 1264 名、スイス側 6 団体 113 名、見学者 14,000 人

34. 「能と現代ダンスがバリ舞踊音楽と創るアジアの創生」への助成

バリに伝わる神話を基に、日本の能と現代ダンスがインドネシア・バリの舞踊音楽とコラボレーションした作品を上演した。

開催時期： 2014 年 7 月 1 日

開催地： インドネシア(バリ)

参加人員： 日本 4 名、インドネシア 8 名、 観客 700 名

35. 「江戸糸あやつり人形ブラジル公演 2014」への助成

約 350 年の歴史をもつ江戸糸あやつり人形の公演を通して、日本文化の紹介と日本への理解を深めた。ポルトガル語も交え公演をした。

開催時期： 2014 年 11 月 17 日～12 月 3 日

開催地： ブラジル（トメアスー、マナウス、サンパウロ）

参加人員： 日本 5 名、観客累計 1840 名

36. 「マジック公演と折り紙講習会（チュニジア・ネパール）」への助成

NPO 法人オアシスが、今年度はチュニジアの SOS 子供の家、ネパール・カトマンズ近郊の SOS 子供村を訪れ、マジックと折り紙の公演を通じて、子供達を中心とした地元の人々と交流した。

開催時期： 2014 年 6 月 25 日～7 月 15 日

開催地： チュニジア（ガルマタ、アクーダ）、ネパール（カトマンズ）

参加人員： （公演 7 回）延べ観客数 計 1400 人

37. 「タイ・日芸術展～作品展示とワークショップ」への助成

日本の美というカルチャーイベントで日本の感性、光、色、化粧、旋律についての講演を行い、ワークショップも行い日本文化の理解に努めた。

開催時期： 2015 年 2 月 21 日

開催地： タイ(バンコック)

参加人員： 日本 7 名、参加者・観客 327 名

(日本語普及事業等)

38. 中国・对外経済貿易大学に対する日本語教材（辞書）の寄贈

日本語普及事業として、北京の对外経済貿易大学の日本語学科の学生 24 名に対し、日本語の辞書を中心とした日本語学習用図書を寄贈した。

実施時期： 2014 年 12 月 9 日

39. 中国・華東師範大学日本語学科への日本語辞典の寄贈

日本語普及事業として、上海の華東師範大学の日本語学科への新入学生 48 名に対し、日本語の辞書を中心とした図書を寄贈した。

実施時期： 2014 年 10 月 15 日

40. ベトナム・ダナン外国語大学向け日本語教育用機材の寄贈

ベトナム・ダナン外国語大学に対し、日本語教育用機材を寄贈した。

実施時期： 2014 年 5 月

41. ベトナム・フエ大学への日本語教育用教材・機材の寄贈

ベトナム中部のフエ大学日本語文化学科に対し、その日本語教育授業で使用する教育専門図書及び日本語教育用パソコンを寄贈した。対象学生 500 名。

実施時期： 2014 年 4 月

42. ベトナム・ドンズー日本語学校ダナン校向け日本語教育用機材の寄贈

ドンズー日本語学校ダナン校に対し、日本語教育用機材を寄贈した。

実施時期： 2014 年 8 月

43. 「民話・伝説の朗読会－日本語によるリトアニアと日本の民話・伝説の朗読」への助成

日本語を学ぶリトアニア人を対象に、日本語でリトアニアと日本の民話・伝説を朗読することにより、日本語の普及と日本理解促進の一助となった。

実施時期： 2015 年 3 月 6 日

開催地： リトアニア（ヴィリニウス）

参加人数： 日本 3 名、リトアニア朗読参加 28 名、観客数 約 50 名

44. 「第 20 回（2014 年）ホーチミン市日本語スピーチコンテスト」への助成

応募者 101 名より第一次審査で 22 名を選び、スピーチと質疑応答による第二次審査で本選出場者を 12 名選出し、4 名を表彰した。優勝者には日本で行われる ASEAN スピーチコンテストへの出場権が与えられた。

開催時期： 2014 年 11 月 5 日

開催地： ベトナム（ホーチミン）

参加人員： 本選出場者 12 名、来場者数 914 名

b. その他の事業

「その他の事業」として、次の2事業を行った。

1. 財団ホームページの更新・運営

前年度に引き続き、外部に対する情報発信ツールとしての財団ホームページの更新・維持・運営を行った。

2. 「財団だより - 第11号」の発行

平成26年9月「財団だより - 第11号」を発行し、関係省庁、他財団ほか助成先、財団関係者、母体会社の双日株式会社の本社・支社・海外店及び関係会社に配付し、平成25年度の事業報告及び財団の活動のPRを行った。

[II] 管理・庶務事項

- 平成26年4月1日 平成26年度奨学生募集を開始
- 4月21日 第81回理事会を「決議の省略」の方法で開催
- ・ 4月28日の臨時評議員会開催を決議
 - ・ 事務局長が川崎雅弘氏から高橋哲夫氏へ交代することを決議
 - ・ 選考委員が川崎雅弘氏から高橋哲夫氏へ交代することを決議
- 4月24日 第64回評議員会を「決議の省略」の方法で開催(最終同意を得た日)
- ・ 辞任した今泉泰彦氏の後任として中村康佐氏を評議員に選任
- 5月12日～13日 会計監査人による決算監査
- 6月5日 第85回選考委員会を紙上開催
- ・ 平成26年度奨学生10名を補充選考
- 6月11日 第82回理事会を開催
- ・ 平成25年度事業報告書及び決算報告書を承認
 - ・ 6月25日の定時評議員会開催を決議
 - ・ 理事長・専務理事の職務執行状況報告
- 6月25日 第65回定時評議員会を「報告の省略」の方法で開催
- ・ 平成25年度の事業報告並びに決算報告を了承
- 6月27日 平成25年度事業報告書並びに決算報告書を行政府「内閣府」に提出
- 9月12日 機関誌「財団だより 第11号」を発行
- 9月18日～20日 「財団奨学生交流会」を開催
- 10月29日 第86回選考委員会を(紙上)開催
- ・ 追加助成案件4件を選考
- 11月1日 平成27年度国際交流助成募集開始
- 12月31日 平成27年度国際交流助成募集〆切
- 平成27年2月19日 第87回選考委員会を開催
- ・ 平成27年度助成案件を選考
- 2月24日 第83回理事会を「決議の省略」の方法で開催

- ・ 3月16日評議員会の開催を決議
- 3月16日 濱塚純一理事が辞任
- 3月16日 第66回評議員会を「決議の省略」の方法で開催
 - ・ 濱塚純一理事の後任として櫛引雅亮理事を選任
- 3月17日 第84回理事会を開催
 - ・ 辞任した濱塚純一専務理事の後任として櫛引雅亮専務理事を選出
 - ・ 平成27年度助成案件(案)及び平成27年度事業計画(案)を承認
 - ・ 平成27年度収支予算(案)を承認
 - ・ 辞任した濱塚純一選考委員の後任として櫛引雅亮選考委員を選任
 - ・ 理事長・専務理事の職務執行状況の報告
- 3月25日 平成27年度事業計画書及び収支予算書を内閣府に提出

以 上